甲斐市立竜王北小学校（学校だより）　No.9　令和３年10月29日　文責／古屋

色づく秋

朝夕めっきり冷え込み、季節は晩秋を迎えました。毎朝の子どもたちの服装からも「冬」を感じさせることが多くなってきました。暦の上では、霜月（しもつき）に替わろうとしています。

「霜月」の由来は、文字通り霜が降り始める月。甲府地方気象台は、24日に今年の初霜・初氷を発表し、平年より15日ほど早いペースで冬が近づいているようです。

また、霜月は、別名「神来月（かみきづき）（神帰月）」とも言われ、10月に出雲へお出かけになっていた神様が、各地へお戻りになる月であるという由来もあるそうです。以前（No3）にも取り上げた暦の由来ですが、その由来からは、先人がどれだけ自然や信仰を身近なものとして感じ、生活していたかがよくわかりますね。

いよいよ11月、暖房器具が恋しい季節となりました。同時に、体調を崩しがちな季節ともなるので、コロナウィルスを含め、健康管理には充分ご留意ください。

～外部人材の力～

学校では、様々な外部機関の方々にご協力いただき、授業の支援が行われています。教員だけでは達し得ない、より専門性の高い部分（分野）に関して、授業の特別講師として入っていただきます。これにより、子どもたちの授業に深まりを持たせることができ、所謂（いわゆる）「その道のプロ」から、精通したお話を聞くことができます。

今年度も、これまでに市役所、スポーツ団体、消費生活センター、ICT関連専門学校、博物館、飲料メーカー等、たくさんの方々に来校していただき、子どもたちへ貴重な内容を提供していただいています。せっかくの機会ですから私も時折お邪魔するのですが、その度に、「なるほど！」「へ～！」と納得することが多く、プロの話に魅了されてしまいます。

校外学習として、現地に赴いて直接見聞きする活動も有意義ですが、学校へ外部講師をお招きして学ぶ活動も、また有意義で

す。「開かれた学校」「開かれた教育課程」が求められる現在、子どもたちにとって、北小の先生だけでなく、広く「地域の先生」からも学ぶことは大切です。

～ 走・跳・投 ～

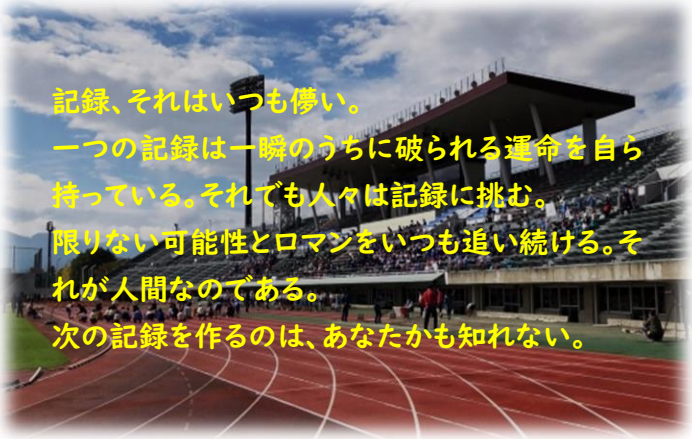
より速く、より高く、より遠くへ…

10月19日、清々しい秋空の下、6年生による「陸上記録会」が行われました。小瀬陸上競技場（JIT ﾘｻｲｸﾙｲﾝｸｽﾀｼﾞｱﾑ）を会場に、市内11校（約600名）の6年生が一堂に会し、熱戦を繰り広げました。

運動会が終わってから本格的に練習に取り組み、一人ひとりが自分の目指す目標（自己ベスト）に向かって直向きに頑張る姿は、1学期とは違う、また一段と成長した姿に感じました。

記録会当日は、やや緊張した面持ちで会場に乗り込みましたが、各自が持てる最大限の力を発揮したと感じています。自分の目標が「達成できた・できなかった」だけでなく、北小の仲間と共に活動する時間がまた一つ持てたこと、陸上運動に精一杯取り組めたこと、小瀬陸上競技場という特別な場所で経験できたことなど、たくさんの収穫があったと思います。残念ながら、保護者の皆様の参観は叶いませんでしたが、また一つ、大切な行事（経験）を削ぐことなく実施できたことをとてもうれしく思います。

小瀬陸上競技場と言えば、ヴァンフォーレ甲府も試合を行う場所。サッカー好きだけでなく、子どもたちにとってたまらない環境ですね。



＜余談＞

私が子どもの頃、「びっくり日本新記録」というスポーツバラエティ番組が行われていました。毎週日曜日の夜にテレビの前に座り、わくわくしながら観ていたことを記憶しています。その番組のエンディングに流れるナレーション（上記内容）が、心に染みる一節で、今聞いても懐かしさと共にセンチメンタルな気分になってしまいます。まさに珠玉の一節ですね。。。